

# 平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

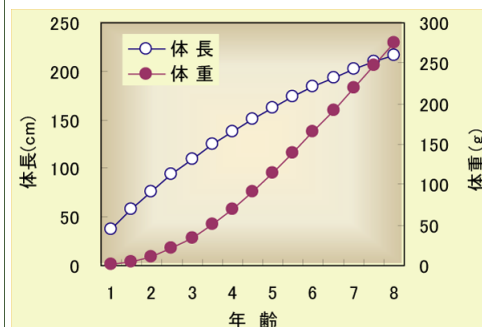
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 20歳程度  
成熟開始年齢: 雄3歳、雌5歳  
産卵期・産卵場: 1～4月、分布域全域  
索餌期・索餌場: 周年、水深350～1,300mの深海域  
食性: エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類  
捕食者: マダラ、アブラガレイ

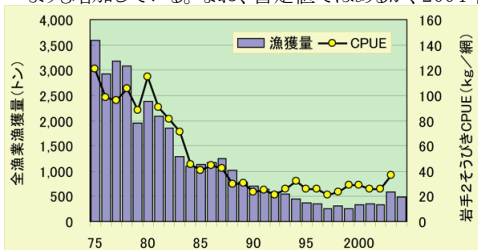


## 漁業の特徴

太平洋北部では、キチジは主に沖合底びき網漁業(沖底)で漁獲されるほか、小型底びき網漁業、底延縄、底刺網で漁獲される。近年、沖底船は9～12月にスルメイカを狙って操業することが多く、スルメイカより深場に生息するキチジに対する漁獲圧は以前より弱くなっている。しかし、今後の資源量の増加によりキチジ狙いの操業が増える可能性があり、動向を注視する必要がある。

## 漁獲の動向

全漁業種類による漁獲量は1975～1985年に急激に減少し、1997年まで再び減少の一途をたどった。沖底の漁獲量も同様で、1970年代には2,000トン前後と高い漁獲量を維持していたが、その後、減少傾向を示し、1997年には過去最低の229トンとなった。しかし、2003年の漁獲量は、全漁業種合計で583トン、沖底で514トンとなっており、1997年よりも増加している。なお、暫定値ではあるが、2004年の漁獲量は全漁業種合計で481トン、沖底で385トンであった。

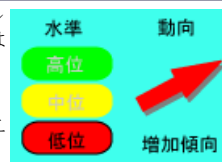


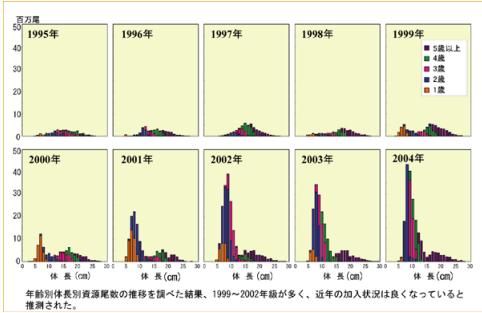
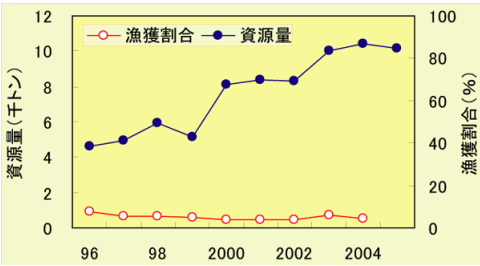
## 資源評価法

秋季にトロール網による底魚類資源量調査を実施し(水深150～900m、計145地点)、面積一密度法により資源量を推定した。調査海域は青森～茨城県沖で、太平洋北部のキチジの分布範囲をカバーしている。曳航式深海用ビデオカメラとトロール曳網調査により、本調査で用いたトロール網の身網による採集効率(網の前にいた魚が網に入る比率を示す係数)は0.3と推定されているため、この値を用いて資源量の計算を行った。

## 資源状態

2000年以降、資源量の増加傾向が認められるが、2005年1月時点の資源量は10,200トンと前年並みの水準に留まっていた。年齢別体長組成の変化によれば、1995～1998年には観察されなかった体長5～7cm程度の1歳魚が、1999～2003年には連続して出現していた。これらの年齢は1998～2002年級であり、近年の加入状況は良くなっていると推測される。2004年には体長15cm以下の1～5歳魚が多く分布していた。漁獲量およびCPUEの長期的な推移から、資源水準が現在も低位にあると考えられ、資源の動向は増加傾向と考えられる。





管理方策

キチジ資源は低水準にあり、資源量を増加させることが必要である。近年の資源量は増加傾向にあり、現状程度の漁獲圧は適正な水準にあると考えられる。しかしキチジ資源が低水準にあること、今後の加入が悪くなる可能性も考慮し、漁獲を現状以下に抑えることにより資源量の増加を阻害させないことを資源管理目標とし、現状の漁獲圧を8割に削減した時の漁獲量をABCとして算出した。

|           | 2006年漁獲量 | 管理基準            | F値    | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-----------------|-------|------|
| ABClimit  | 580トン    | 0.8Fcurrent     | 0.053 | 4.9% |
| ABCTarget | 460トン    | 0.8・0.8Fcurrent | 0.042 | 3.9% |

- ABCは10トン未満を四捨五入した値
- F値は各年齢の単純平均
- 漁獲割合はABC／資源重量

資源評価のまとめ

- キチジ資源は低水準に留まっているが、増加傾向が認められる
- 近年の加入状況は改善し、漁獲対象資源が増加すると推測される
- 今後、加入状況が悪化する可能性もあるため、注視する必要がある

管理方策のまとめ

- 漁獲を現状以下に抑えることにより、資源量の増加を阻害せず、資源回復を確かなものにする
- 急激に漁獲圧を高めないことと、若齢魚を保護していくことが重要である

資源評価は毎年更新されます。